



2024.2.20

郡山市立 日和田小学校 NEWS LETTER

文責 関 忠昭

Vol.10

*** 2 月 * (如月:寒さ厳しく重ね着「衣更着」)**

1月末と2月初めの雪で、子どもたちの芸術作品が校庭を飾ったのも束の間、その後の暖かさで数日で溶けてしまいました。春の足音が近づいてきています。

全国学校給食週間

給食

給食ができるまで

1月24日～30日まで「全国学校給食週間」だったことを受け、今月の全校集会では、「給食ができるまで」について調理室の様子を紹介しました。

子どもたちの登校前から作業をはじめ、下校後まで片付けの仕事をしている調理員さんたちは、子どもたちと顔を合わせることがほとんどない中で、毎日、一つ一つ丁寧な作業で、美味しい給食を作ってくれています。

一皿の料理は、生産者（農家）、卸業者、販売者、調理する人、食事代を出してくれる両親…、**たくさんの人の思いや努力**でできています。調理員さんの様子を紹介することで、「**見えざるものを見ようとする目**」の大切さに気付いてくれたら…。給食を食べる時の「いただきます」に込める思いが、ちょっぴり

変わってきたいな
と思いながら…。調理員
の皆さん、いつもありが
とうございます。



Pick Up 高倉人形浄瑠璃 体験



(日和田公民館で、人形浄瑠璃に挑戦しました)

なわとび記録会

縄跳

文化体育館などを使い、学年ごとに「なわとび記録会」を行いました。今年、体育館が使用できず、思うような練習ができませんでした。子どもたちは「今できる精一杯」で、自己記録に挑戦していました。なわとびは、運動強度の高い有酸素運動で、短時間で多くのカロリーを消費し、リズムとバランス能力を同時に刺激するだけでなく、血流を心臓に戻すふくらはぎの筋肉を鍛えることで、新陳代謝が促進されるなど心肺機能の向上にも効果があります。

着任

中尾 貴美子 先生 着任

2月5日(月)より、非常勤講師の中尾 貴美子先生が、本校で勤務いただくことになりました。中尾先生は、小学校の教員を長くお勤めになられた先生で、中でも図画工作科の指導力の高さに、定評があります。初日からフル回転で、3年生の国語や図工などの指導をしてくださいます。この年から、いろいろな学年の子どもたちの指導をお願いします。よろしくお願いします。



「高倉人形浄瑠璃」体験

3年

3年生が、2月14日に地元の民俗芸能「高倉人形浄瑠璃」を体験しました。「福島県重要有形民俗文化財」に指定されている「高倉人形浄瑠璃」は、江戸時代に始まり明治時代に一度途絶えましたが、平成29年に住民主体で復活させました。「高倉人形浄瑠璃」の皆様のご指導で、全員が実際に人形を操作する体験をさせていただきました。今回の体験を通して、伝統を受け継ぐとする人々の思いにも触れることができました。貴重な体験をありがとうございました。

先日、5年生の算数の授業で「円周率」を扱いました。かつて、「ゆとり世代は円周率を3で習っている」ということが話題になったことを覚えていますでしょうか。これは、某学習塾による誇大広告が発端で、実際には「目的に応じて3を使用してもよい」というものでしたが、この問題を改めて考えてみることは、今求められている「真の学力」を考えるヒントになるように思います。

そもそも「円周率とは何か」と質問すると、「3.14」とは答えられても、その意味を答えられる人は意外に少ないのが現状です。円周率とは、直径に対する円周の長さの比率（円周は直径の長さの何倍か）ですが、そもそも円周率は無理数で、現在百兆桁まで求められているように、3.14ではありません。ならば、中学で無理数を習うまでは円周は直径のおよそ3倍で扱い、無理数を習った後に、実は円周率は割り切れない数で3.141592...と教わる方が子どもはその意味を伝えやすいようにも思います。確かに3ではなく3.14として計算すればより正確な値は出ますが、場面に応じて適用する力が大切であると考えます。

例えば、DIYで直径5cmの円形の花壇を造ろうとしたとき、円周率3.14で求めれば円周は15.7cmですが、3で求めると15cmとなり70cm分の資材が不足してしまつたため、この場合は3.14が有効です。しかし、この花壇を囲むロープを10m・20m・30m巻から選ぶ場合、20m巻が最適であるとは分かります。大切なのは常に3.14を使うことではなく、こうした見方・考え方です。

実生活や仕事で必要となる「生きる力」は、細かな計算力や暗記力以上に、物事の本質をとらえる「思考力・判断力」が重要であり、大学入試でも科目融合型の問題を課す大学が増えています。福島県の学力の課題として、「基礎はできていても応用力が…」と言われ続けているが、そもそも「基礎・基本とは何か」を読み違えていては、応用力、ひいては真の学力を育むことはできないと、改めて感じました。



待ちに待った雪に大喜び！



2月5日から降り続いた雪で、校庭は一面の雪景色になりました。久しぶりの大雪に喜ぶ子どもたちは、「雪だるま」や「かまくら」を作ったり、「雪合戦」をしたりと、冬ならではの遊びを楽しみました。

温暖化で、季節感を味わうことが難しくなっている現代、自然とふれあいながら遊ぶ機会は、子どもたちにとって貴重な体験となりました。



3

3月の行事予定

- 1日(金)～6日(水) 学期末短縮(B案)
- 11日(月) いのちを考える日 体育館使用開始(予定) 卒業式会場作成①(5年)
- 12日(火) 同窓会入会式(6年)
- 14日(木) 卒業式練習
- 15日(金) 卒業式予行(5・6年)
- 20日(水) 春分の日
- 21日(木) 修了式(1～5年) 卒業式会場作成②(5年)
- 22日(金) 卒業式(5・6年)
- 26日(火) 教室移動
- 27日(水) 離任式(自由登校)

*** お弁当の日 ***
21日(木)

Column

NHK 大河ドラマ「光る君へ」で描かれる平安時代は、貴族の華やかで優雅な暮らしのイメージが強く、寝殿造に代表される宮廷社会は繁栄を極め、「かな文字」や「女性文学」「大和絵」など日本独自の文化が生み出されたのもこの時代です。

「この世をば わが世とぞ思う望月の かけたることもなしと思えば」(この世は私のためにあるようなものだ。望月(満月)のように足りないものは何もない) 栄華を極めた藤原道長が、藤原氏の全盛を詠んだ歌です。このころの貴族は、巨大な屋敷に住み、蹴鞠や和歌などの遊びや宴会にふける日々を送っていました。なんともうらやましい限りです。

しかし、光あるところ、必ず影が付きます……。

あの陰陽師、安倍清明が活躍したのもこの時代であり、栄華を極めた藤原氏一門内の主導権争いが、もののけや鬼、怨霊・生霊までもを生み出し、貴族たちを悩ませました。また、一部の特権階級の影で、相変わらず苦しい生活を強いられていた民衆たちは暴徒と化し強奪を繰り返しました。華やかに見えた貴族たちも、一方では怨霊や強盗におびえる不安な日々を送っていました。

彼らが発する光があまりにもまぶし過ぎるがゆえに、自らが生み出した影に苦しめられていた貴族たち。「この世は俺の物だ」と平気で言うてしまうほど強大な権力を身に付けた道長と藤原一族は、果たして本当に幸せだったのでしょうか……。

今の私たちの生活が、何だかとても愛おしく思えてきます。

